

＜目的＞ ルイボスティ（アスパラサス・リネアリス）は、南アフリカ原産の豆科に属する針葉樹で、原住民に「不老長寿の飲み物」として愛飲されてきた茶である。近年ルイボスティの種々の生理作用が明らかになり、日本でも注目を集めつつある。そこで、この茶の嗜好特性を知ることが目的とし、異なる年齢の男女をパネルとして官能検査を行った。

＜方法＞ 試料は、ルイボスティ・ウーロン茶・紅茶・ほうじ茶・どくだみ茶・杜仲茶・はと麦茶の7種とした。官能検査は、茶汁の水色・香り・味・総合について嫌い(-2)・やや嫌い(-1)・普通(0)・やや好き(+1)・好き(+2)の5段階評点法と順位法で行い、結果を統計処理した。男性20～56歳の53名、女性19～55歳の79名をパネルとした。

＜結果＞ 健康茶を飲んだことのある人は80%以上と多かったが、ルイボスティを知っている人は10%以下と少なかった。ルイボスティ・ウーロン茶・紅茶・ほうじ茶の4種の茶汁の水色の評点は、茶汁間に顕著な差は見られなかった。香り・味・総合評価では、どの年齢においても、紅茶＞ほうじ茶＞ウーロン茶＞ルイボスティの順となった。特に若い女性(19～20歳)で4種の茶汁に対する評点差が大きく、味・総合評価でルイボスティはやや嫌い(-1)以下と低かった。男性は女性に比べ4種の茶汁の香り・味・総合の評点差が小さく、ルイボスティの評価は普通(0)であった。順位法でも同様の結果が得られた。健康茶4種に対する水色の評価は、ルイボスティ＞杜仲茶＞はと麦茶＞どくだみ茶の順であったが、香り・味・総合評価では、はと麦茶＞ルイボスティ＞杜仲茶＞どくだみ茶の順になった。また、茶汁が暖かくても冷たくても官能検査結果(順位)は変わらなかった。